

## キャリア教育を見直してみませんか!?

### キャリア教育の定義を確認しましょう!

中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(平成23年1月31日)において、次のようにキャリア教育の定義が明確に示されました。

児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、  
必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

### 各学校段階におけるキャリア教育の目標とは・・・

#### 小学校におけるキャリア教育の目標

- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成



#### 中学校におけるキャリア教育の目標

- 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- 興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成
- 進路計画の立案と暫定的選択
- 生き方や進路に関する現実的探索

### キャリア教育で育成する力とは・・・

#### 人間関係形成・社会形成能力

他者の個性を理解する能力  
他者に働きかける能力  
コミュニケーション・スキル  
チームワーク  
リーダーシップ 等

#### 自己理解・自己管理能力

自己の役割の理解  
前向きに考える力  
自己の動機付け  
ストレスマネジメント  
忍耐力 主体的行動 等

#### 課題対応能力

情報の理解・選択・処理等  
本質の理解 原因の追究  
課題発見 計画立案  
実行力 評価改善 等

#### キャリアプランニング能力

学ぶこと・働くことの意義や役割の理解  
多様性の理解 将来設計選択  
行動と改善 等

キャリア教育は、教育活動全体を通じて行うものです。職場見学や体験などの活動を一過性のものに終わらせず、ねらいを明確にして、他の教育活動と関連付けたり、事前事後の指導を工夫したりすることが重要です。上記の目標や育成する力を念頭に置き、自校の児童生徒の実態を踏まえて、全体計画、年間指導計画を見直していきましょう。

# リーフレットで授業力アップ!! ③

## 子どもに学習の見通しをもたせるとともに、振り返りで確認する ～国語～

「みんなの宝物を聞いて、グループで話し合い名人になろう」

平成24年 11月 丸山小学校 2年 授業者 栗山貴子 教諭

「話すこと・聞くこと」の単元終末。栗山教諭は、

前の時間よりも上手に話し合いをするにはどうしたらよいか

という学習課題を、子どもとともに確認し合いました。

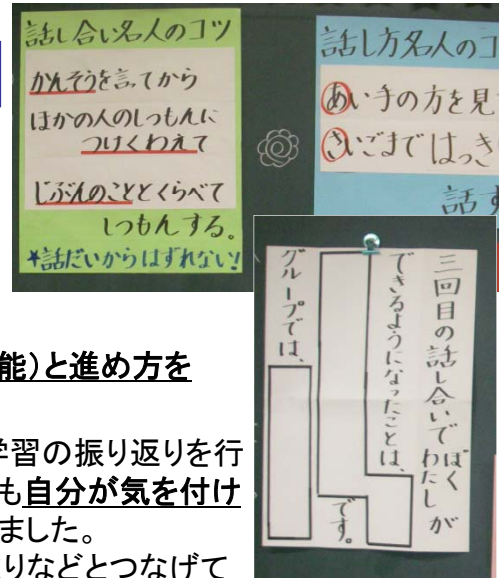
その上で、前時までの学習で学んだ「話し方名人のコツ」「聞き方名人のコツ」を振り返った上で、今日はさらに右のような「話し合い名人のコツ」に気を付けて取り組んでいこうと働きかけました。また、うまくできたかどうか、一人の発表が終わるごとにコツを振り返るという学習活動も設定しました。

これにより児童は、今日の話し合いで気を付けるポイント(技能)と進め方を明確にし、本時の学習の見通しをもつことができました。

さらに栗山教諭は、授業の終わりで右のような型を提示し、学習の振り返りを行いました。気を付けるポイントが意識できていた児童は、ここでも自分が気を付けたコツ、出来るようになったコツをしっかりと振り返ることができました。

この振り返りを評価として使う場合には、もちろん教師の見取りなどつなげて考える必要があります。しかし、児童に学びを自覚させる振り返りとしては、有効な手立ての一つと言えるでしょう。

<文責 川又 健司>



## 子どもの興味・関心を引き出し、活動の意欲を高める ～音楽～

「琴の音色や奏法、平調子の特徴を工夫して、日本的な旋律をつくろう」

平成24年11月 白根第一中学校 2年 授業者 遠見 智子 教諭

遠見教諭は、夏の中学校教科担任授業研修会で研修した「創作」の分野を、和楽器の分野へ広げて実践しました。そのよさをお伝えします。



遠見教諭は、平調子に基づいた旋律カードを用いて、どの子にも8小節のふしづくりをさせています。本時は、その旋律をもっと日本的にするには、どうしたらいいか、工夫させる授業です。

【子どもの興味・関心を引き出す手立て】

聴きなれた旋律(ビリーブの旋律)を、琴の技法(押し手, 引き色など)を入れて弾くことで、日本的な効果を実感する。

すると、子どもたちの目の色が輝き、友達同士でお互いに顔を見合わせ、「すげ、和風だ～」など、様々なつぶやきが聞こえたのです。

これにより、鑑賞(「六段の調べ」)で聴き取った日本的な雰囲気の出てるわけと、曲想表現の技法が結び付き、子どもたちの学習活動は、意欲的に変わっていきました。

聴きなれた旋律でも、日本的になることを学んだ子どもたちは、進んで自分から選んだ技法を使って、自分のつくった旋律を変えていこうと取り組み出しました。

遠見教諭の、活動の意欲を高める工夫は、その後の学習活動に有効に働きました。

<文責 本田 和彦>





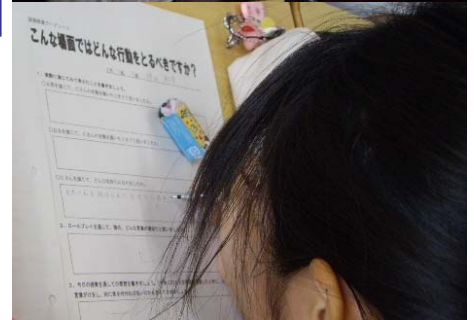
「他の人の気持ちを考えて」

平成24年10月 小新中学校 1年 授業者 庭田茂範 教諭 岡村芳倫 教諭

庭田教諭と岡村教諭は、体育祭の競技で負けたことをB太のせいにするA男とB太が言い合いをしている場面で、それを見ているCさんの取るべき言動を考えさせたいと考えました。そこで、2人でまず場面を演じて見せ、生徒に経験を想起させる投げ掛けの後、次の学習課題を設定しました。

A男がB太に対してきつい言い方をしている場面に遭遇したCさんは、A男、B太に対してどんな言葉をかけるべきだと思いますか。

生徒は、A男、B太、Cさんの役割をそれぞれ演じた後、プリントにA男やB太に対するCさんの言葉を記述しました。ある生徒は、「誰にでも得意不得意があるんだから。(A男へ)」「体育祭で勝ち負けは関係ないよ。(A男へ)」「気にしないでいいよ。B太さんは真剣にやってたんだから。(B太へ)」などと記述しました。ロールプレイにより、友情や信頼に関する道徳的価値(内容項目2-(3))についての共感的な理解を深め、道徳的実践に結び付けている姿が見られました。



<文責 長沢 剛>

## 生徒指導にも、リーフレットの活用を!! ③

いじめ未然防止のために 子どもの問題を共に解決しようとする教職員の姿勢

子どもが、「友達に嫌なことをされた。」  
「パンケースの中の物をいたずらされた。」と、訴えてきたら、どうしますか?

- ① 「今、忙しいから、後でね…」と聞き流す。
- ② 「席を離れる時は、机の中に片付けたら」など、アドバイスや提案をする。
- ③ 手を止めて、子どもの訴えを傾聴する。

リーフレットには… (P2,3)

### ● いじめや差別につながる言動を見逃さない

と、あります。上記の例ではどうするとよいのでしょうか。

子どもたちの訴えに、まず、しっかり耳を傾ける姿勢が大切です。いじめが疑われる小さなサインを見逃さないためには、教職員が、子どもたちの声を聴き、**不満や不安、辛さなどの気持ちを真剣に受け止め**、訴えに対して、**適切に対応**していくことが必要です。

ロールプレイを通して、「話を聴く」ことについての校内研修を行った学校がありました。ロールプレイで、上記の①や②の対応を経験した後、先生方から出された感想です。訴えに対して、傾聴することで、「この人には話してもいいな。」という気持ちになります。

話を聴いてもらえなかったから、何も言う気になれなかった。

話を聴いてくれない先生に、話をしても仕方がないと思った。

「いじめ見逃しゼロ」のために、日頃、**子どもの声をきちんと聴く姿勢**があるかについて、振り返ってみましょう。子どもが訴えてくる問題や悩みについて、**共に解決しよう**という教職員の姿勢や構えが大切です。

鋭敏な感覚を磨くためにも、「話の聴き方」、「カウンセリング能力向上」のための、校内研修を行ってみるのも、一つの方法です。

<文責 中川 日里>

# 安全で楽しい柔道の授業を目指して

## デジカメのムービー機能を活用し自己評価と相互評価で高め合う授業

「 武道(柔道) 」

平成24年 12月 新津第五中学校 2年 授業者 松嶋 一 教諭

「柔道」の単元の後半。松嶋教諭は、「体落とし」の技を習得させる授業で、示範をしながら、3つのポイントを確認した後、次のような課題を提示しました。

お互いの技をデジカメの動画で撮影し、3つのポイントがしっかりできているか、評価し合い、技能を向上させよう。

そして、ポイントを意識して撮影や視聴ができるように右肘と両足の3カ所に赤いガムテープを貼り、「受け」と「取り」と「撮影者」を交代しながら撮影しました。

その後、3人でビデオを見ながら、「右肘を外に出すようにしてつり上げるのが、できていないな。」と自分の動きを見て自己評価し、さらに、「右肘を体と体の間に入れない方がいい」と、メンバーにアドバイスをもらいました。

次の段階では、自己の課題を意識して練習をし、改善できたか再度撮影して見た結果、多くの生徒が、1回目より2回目がよくなったと評価しました。

このように、生徒同士が互いに高め合う姿が見られたのは、

- ①課題が的確に設定されていること
- ②評価のポイントが3つに絞ってあること
- ③映像という具体物があること

などが、その要因です。また、このような実践を日常的に行ってきた成果だと思えます。



## 文部科学省委託事業・武道等指導推進事業の紹介

本市では、柔道の安全指導について、これまで、自作DVDや全柔連からの安全教本や授業づくり教本を配付したり、実技研修を実施したりしてきました。

今年度は、文部科学省の委託事業で「武道等指導推進事業」を進めていますので、その内容を紹介します。

まず、右の方々に推進委員になっていただき、計画を立てました。その結果以下の事業をすることになりました。

- ① 先進校視察(1月)(推進委員)
- ② 地域人材を活用した授業研修会(1月)(市内全中学校対象)
- ③ 「柔道の安全指導 第2版」(DVD)の作成配付(3月)
- ④ 意識調査
- ⑤ 報告書の作成配付(3月)

### <武道等指導推進委員>

- 委員長 小林 日出至郎 教授  
(新潟大学教育学部)
- 委員 阿部 高弘 教授  
(長岡工業高等専門学校)
- 委員 平山 智康 教諭  
(新潟市立坂井輪中学校)
- 委員 門倉 純一 教諭  
(新潟市立新通小学校)
- 委員 長沢 宗英 指導主事  
(新潟市教育委員会南区担当)

1月の授業研修会については、すでに各中学校に案内を出しました。多くの方から参観してもらい、たくさんの意見をいただきたいと思えます。また、本事業に関するご要望などがありましたら、お知らせください。

<文責 長谷川 智>